



साथीहरू
サティハル
仲間達

ブッダ基金会報
第9号
2007年5月



Buddha Foundation
ブッダ基金事務局

代表理事 山口貴司 事務局長 田村譲二
会報委員 原田昌彦 水野 巧 田村譲二

事務局 / 〒432-8021 浜松市中区佐鳴台3-52-23 Harcomビル2F
TEL: 053-401-7400 FAX: 053-401-7400
URL: <http://www.buddha-f.com>
E-mail: buddha_fj@yahoo.co.jp

ブッダ基金口座 静岡銀行可美支店 (普) 0376016
浜松西郵便局振替口座 00820-3-26314

「奉仕が私たちの仕事です」



<ネパールポカラ市のシンボル霊峰マチャプチャレ = 神の住む山と言われる>
- - - 現地で知り合ったプロの写真家北川カママン撮影

認定NPO法人「ブッダ基金」へのお誘い

代表理事 山口貴司

アジアの国々の中でネパールは、世界最高峰エベレストやシェルパ族、そしてヒヤラヤの国として有名です。しかしアジアの最貧国であることを知る人は少ないかも知れません。日本の国土の40%程で山ばかり、2400万人の人々の暮らしはGDP一人あたり年250ドル、日本人の実に1/140という低さです。30の民族があり共通言語はネパール語です。主要産業は農業ですが、観光と手工芸品(カーペットなど)がこれから注目されます。そして外国で出稼ぎ労働者や軍人(傭兵)となっている者からの仕送りや、外国の援助を当てにしないと成り立たない国となっています。

私たちは2001年にネパール支援の「ブッダ基金」を設立しました。ブッダは言うまでもなく釈迦のことで、ネパールのルンビニが生誕地です。しかし、私たちは宗教上の理由でこの名前を付けたわけではありません。日本とネパールの友好のシンボルとして双方が良く知る「ブッダ」名を戴き、2004年3月には日本で30番目の認定NPO法人となり、政治不安の中ではありましたが活動を続けてきました。

ブッダ基金は以下に掲げるように4つの柱を立てネパールを支援していますが、あくまでもネパール人の自立を助けることを主眼としています。

1. 医療支援活動・・・

僻地の無医村を巡る医療キャンプ(無料診療)を続けています。そこで見つかった重病者を助けるためポカラ市にブッダ病院を建設しましたが、経営危機となり失敗しました。



今後は小さな診療所を基点として活動を継続します。ネパールに医療保険制度を創るための準備にも力を注ぎます。

右の写真
<ホカの北;ダンプス村で医療キャンプを開催
ネパールの伝統楽器による楽隊が一行を歓迎してくれた>



2. 教育支援活動・・・

これまでに多くの小・中学校を訪問し、子供たちの修学に必要な文房具を寄贈してまいりました。近年、学校に図書を備える活動を開始し、ポカラ市周辺の3校を選んで200冊程度の小図書館を作りました。またマナスルを望める美しいサッレ村には、これまで千葉の「フィリピン」の友を援け



<カバツグ小学校に寄贈した図書>

る会」等の支援を受け村人が作った小学校しかありませんでしたが、ブッダ基金の支援で中・高等学校の増設が始まっています。

右の写真
<小学校の教室を間借り、中・高等学校の設立を待つ最上級生>



3. 産業支援活動・・・

目だった産業がないネパールに、ジンチョウゲ科のロクタによる手すき紙と竹を使った竹うちわを、日本の丸亀からうちわ職人を同行し、技術を移植。愛・地球博ネパール館での試験販売を契機に、現在では3万本近くの現地生産・ブッダ基金を通しての販売を行っています。

右の写真
<丸亀の伝統手法でうちわ製作に励む女性研修生>



左の写真
<ダンプス村での村の学校の教室を診療所にした医療検診風景>

4. 女性の自立支援活動・・・

ポカラ市の近郊にあるバラットポカリ村の保育所を支援してきました。農婦が子供を預け安心して働けるようにするためです。



< 保育所プロジェクトの現地側リーダー アーマお婆さん >

ブッダ基金は「はましん地域交流基金」との連携で毎年20万円ほどの支援を行ってきました。この支援により、保育所は専任の保母さんを置き、児童にランチの給食が可能になっています。ネパールでのお金の価値は日本の何十倍になる良い例です。

援助とは相手の立場を相互に十分理解し、する側もされる側も双方が同じ目線に立ち、する側の傲慢さやされる側の卑屈とは無縁でなくてはなりません。

ブッダ基金は試行錯誤を繰り返しながらも12次にわたる派遣団を送り、参加された日本人はそれぞれの感慨をもって帰りました。そこで知ったことは、豊かな自然に恵まれてはいても、そこに生きるには過酷な条件があることでした。鉄道、自動車道路はおろか、電気・ガス・水道のない生活が日本にいる皆さんに想像できますか。それでもネパールでは、人々が自然と一体となって逞しく生きています。

問題はネパールの自然の厳しさだけではなく、民族が入り混じる国の歴史、王家によるこれまでの専制政治体制、今も厳然と残るカースト身分制度から男尊女卑の風習など、根は深いものがありますが、現実の問題としては、医療制度がないから貧しい人々は医者にかかれませぬ。優秀な子供が学校にも行けません。衣食住は何とかなっても、現金収入がないから教育と医療にまわす資金がないのです。ブッダ基金は、そんなところにささやかながら手を差し伸べてゆきたいと思っています。産業支援はネパールの自然を破壊しないで収入を得られる視点から取り組んでいます。

私たちの活動が、少しでもこうした人々を救い、人材を育て、生活を支える役割を果たせたら、それは小さくても素晴らしい事業であると考えています。

ネパールの政治状況は少しずつ良くなってきました。議会制民主国家に生まれ変わろうとしています。身の危険はありません。どうか皆様、私たちの趣旨をご理解頂き、ブッダ基金に加入して一緒に活動しませんか。寄付される方は優遇税制の対象となり、免税措置がとられます。

私はネパールのポカラに住んでいますので、いつでもお寄り下さい。また、ブッダ基金のホームページ <http://www.buddha-f.com> をご覧下さい。

認定NPO法人ブッダ基金 理事長 山口貴司

事務局から

編集後記

事務局 田村譲二

先日の新聞に、「ネパール新政府が4月24日をロクタントラ記念日 = 民主化記念日として、国民の休日にすることを発表。」というニュースを取り上げていました。そういえば昨年の2月頃反政府運動の激しさは絶頂を極め、とうとう国王ギャンendraも7政党の要求を呑んで、国会の復活を宣言せざるを得なくなったのが、ちょうど1年前の4月24日でした。その後、ネパールは日本の明治維新を思わせるような混乱の中で、大きく舵を切りつつあるようですが、ブッダ基金の活動もそれまでの静観から、行動に大きく舵をあて、昨年2月の第8次派遣以降、第9次(6月)、第10次(9月)、第11次(10月)、第12次(12月)と矢継ぎ早に派遣団を送り、ついにはポカラ現地に簡単な事務所まで開設、山口理事長には長期滞在をお願いするまでになりました。おかげさまでこれまで停滞気味であったそれぞれの活動も大きな進展を見せ、現地との間にも、これまでも増して、確かな絆を築けるようになりました。

一方、ご存知のように、ブッダ基金のこうした活動は皆様からの会費・寄付金で支えられておりますが、ここ1年の活動の活発化に伴い事業費の拡大(平成18年度740万円)が、収入の枠(同年度594万円)を超えるようになり、これからも教育支援としての学校建設が本格化することを考えると、非常に心もとない財政状況となっております。名誉ある静岡県認定法人第1号の資格も、無事3年目の再認定を果たすことができましたこの機会に、皆様に再び、強くご支援をお願いする次第です。よろしくごお願い申し上げます。 - - - - - /// 拝

寄付のお願い と 会員勧誘のお願い

日頃はブッダ基金の活動にご支援、ご協力頂き有難うございます。この会報でもお知らせしております様に、昨年1年間を通して医療・教育・産業振興・女性の自立等の分野においてめざましい活動を展開してまいりました。これからも一層活発な支援活動を進めて行く所存でありますので、皆様の温かいご支援を引き続きお願いするとともに、この活動に参加していただける方をご勧誘お願い申し上げます。

正会員	一口	12,000円
個人賛助会員	一口	6,000円
団体賛助会員	一口	30,000円

ご寄付用途に関しご要望ございましたら事務局までご連絡！

振込先

静岡銀行 可美支店
預金種目 普通預金
口座番号 0376016
名義 ブッダ基金

代表理事 山口貴司

振込先

郵便局
口座番号 00820-3-26314
加入者名 ブッダ基金

住所が変わりました

特定非営利活動法人 ブッダ基金
〒432-8021 浜松市中区佐鳴台3-52-23
Harcom ビル2F
TEL/FAX 053-401-7400
E-mail tamura_geo@ybb.ne.jp
ホームページ <http://www.buddha-f.com>